

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

タイトル 医者の裏話:救急医療の改善策(3回シリーズ 第3回目) [2017年6月]

医師当直について書いてきました。

私は今後の救急医療は、現在のように各科の医師が交代で当直をするのは適切ではないと思います。救急専門医が8時間交代で救急外来を受け持つのが理想で、これにより前回示した多くの問題が改善されます。

第一に、医師の連続勤務がなくなり、医師の疲弊が改善され、医療事故が減ります。第二に、地方の中核病院に医師が増え、医師の偏在が改善されます。第三に、救急患者の受け入れのハードルが低くなり、「救急患者のたらいまわし」が改善されます。救急入院が必要な患者さんに全て入院してもらうためには、救急専門医は救急外来のみを担当し、入院後の担当医は別の医師にすべきでしょう。さらに第四に、救急専門医が救急診察することにより、救急医療のレベルが上がり、重症患者の救命率が上がるのが期待できます。

問題は、救急専門医が現在の日本に少ない点です。多くの若手医師を救急専門医に育て、中核病院に配置する必要があります。目標は2025年です。救急室を受診する患者さんの数と、75歳以上の後期高齢者の数とは比例すると考えられ、2025年以降に後期高齢者が急増する前に対応すべきです。国民の多くがこの問題に関心を持って、行政も後押しして、問題解決に取り組んでほしいと思います。